

授業概要

日本、中国、インド、韓国を代表とするアジアの主要国は、世界経済の主役である。戦後の高度成長を経て、日本はアジア（東アジアと ASEAN）をリードしたが、20 世紀の終わりにから長期停滞に陥る。一方、中国を筆頭にアジア諸国・地域は躍進し、21 世紀は「アジアの世紀」とされる。今後、日中経済関係が益々深まっていくと思われる。本講義では、アジアの経済発展メカニズムを整理するとともに、東南アジア、東アジア、南アジア各国の経済状況を概観することとする。

授業計画

第 1 回	イントロダクション・本授業の内容、対象国・地域の概要について
第 2 回	世界経済の中のアジア経済/アジア経済の重要性について
第 3 回	アジア地域の経済政策について
第 4 回	グローバリゼーションとアジア経済について
第 5 回	アジアにおける地域統合について
第 6 回	東南アジアの経済①について
第 7 回	東南アジアの経済②について
第 8 回	RCEP の経済的ビジョン①について
第 9 回	RCEP の経済的ビジョン②について
第 10 回	日本の経済—歴史、現状、論点について
第 11 回	日本型資本主義について
第 12 回	中国型資本主義①について
第 13 回	中国型資本主義②について
第 14 回	インドの新たな経済発展モデルと直面している課題について
第 15 回	韓国の経済発展と課題について
第 16 回	筆記試験

到達目標

日本人の私たちの生活は、様々な形でアジアの人々の生産活動や労働、生活と結びついている。授業を通じて、アジア諸国の経済のダイナミクスやその歴史を理解すると同時に、現代のアジアが直面する様々な課題や、日本とアジアの関係について学んでいく。

履修上の注意

この授業は、講義形式を中心とするが、受講者の主体的な参加を重視する。この授業で出る中央アジア地域の経済実態や課題について、質問や議論に積極的に取り組んでほしい。そして授業を欠席せずにノートをとってもらいたい。授業開始後 30 分以上の遅刻は、欠席扱いとする。

予習・復習

授業のレジュメを把握し、参考書の該当箇所と新聞・WEB サイトのアジア経済に関する記事をよく読むこと。配布した参考資料を読み、授業時に示す課題について回答レポートを作成すること。

評価方法

成績は、レポート(30%)と期末試験(70%)により評価を行う。

テキスト

特定の教科書は使用しない。以下の参考書を推薦する。

- ・参考図書：『現代アジア経済論』—「アジアの世紀を学ぶ」
- ・著 者 名：遠藤 環、伊藤 亜聖_他
- ・出版社名：有斐閣
- ・出 版 年 (ISBN)：2018/3/28